

お互いのよさを認め合うよりよい人間関係づくり

ソーシャルスキルトレーニングの実践と「グレートタイム」の充実を通して

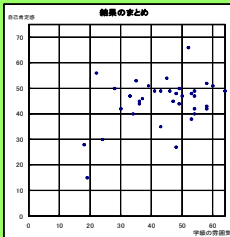
生徒指導相談班 高井 美智代（小学校教諭）

研究の概要

本研究では、自分のよさを認められ気付くことで自己肯定感が高まり、人のかかわり方を学んだり互いのよさを伝え合ったりすることでよりよい人間関係を構築していくことができると考えた。そのために、学級の実態に応じた「ソーシャルスキルトレーニング（SST）」を計画的・段階的に実践し、また、SSTで学んだことを生かし、教科の授業や学級活動等の時間で互いのよさを認め合う「グレートタイム」を設定し、実践した。

実践内容

5月実施のC&S質問紙



自己肯定感が低く、学級の雰囲気がよくないと感じている児童がいることがわかる。



自己肯定感が低い
自分に自信がない
自分がいや

学級の実態
5年生



級友とのトラブル
自己中心的な言動
自分の思いを表現できない

学級の実態に応じたSSTの実践

相手の気持ちを考えて伝える・ルールを守る・自分で考えて行動する

ポイント
SSTを行い、日常生活や「グレートタイム」でフィードバックすること

スキルを上げていく

7月 お礼の言葉（配慮のスキル）

【ねらい】うれしい気持ちを言葉にして伝え、温かい人間関係をつくる
【活動内容】どんなときに「ありがとう」と言われたいか考える



9月 腹が立ったときの上手な解決方法（配慮のスキル）

【ねらい】腹が立ったときでも、言い方や表情が大切であることを理解する
【活動内容】友達に対して腹が立ったときの行動を考える

10月 さわやかな断り方（配慮のスキル）

【ねらい】相手の気持ちを考えながら、自分の気持ちを伝える
【活動内容】友達の誘いを、相手を傷つけないで断る方法を考える



11月 友達の失敗を許す（配慮のスキル）

【ねらい】失敗した相手を責めても、目的達成の援助にはならないことに気づき、許す気持ちや励ます態度を身に付ける
【活動内容】友達が失敗したときの行動を考える



「グレートタイム」の集まりづくり
1学期（実態把握）
中集団（4人組）・全体
2学期（実践）
小集団（2人組）
→中集団→全体

「グレートタイム」の活動内容
見合う事柄（リコーダー練習や係活動の様子など）を決めて、相手のよさを伝える

ワークシート

「グレートタイム」委員会
10月前半
当番をわすれなかったね
10月後半
休んだ人の分も仕事をし
てがんばっていたね
友達からのコメントをもら
って
やる気が出た。これからも、
みんなの役に立ちたい。

「グレートタイム」

教科の授業や学級活動等の時間（主に最後の10分間）に、努力したことや活躍したことを伝え合う

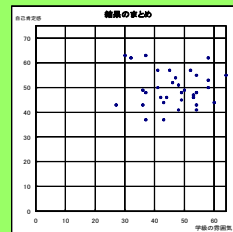
第1段階 4人組（教科）・全体（学校行事）

第2段階 2人組（鼓笛のリコーダー練習）

第3段階 3～4人のグループ（運動会の係・学級の係・委員会）

第4段階 全体（学習・生活全般）

11月実施のC&S質問紙



自己肯定感が高まり、学級の雰囲気もよいと感じる児童が増え、互いのよさを認め合うことで、よりよい人間関係が築けてきた。

成果と課題

自分のよさに気付いた
互いのよさを認め合う雰囲気ができた
よりよい人間関係が築けた

日常の観察とC&S質問紙の結果から学級の実態を把握して、配慮のスキルを中心としたSSTを取り入れた。この取組で、学級内の児童同士が相手の気持ちを考えながら、自己表現できるようになった。また、「グレートタイム」によって、相手の努力しているところや活躍しているところに目を向けたり、相手からほめてもらうことで、学級に互いのよさを認め合う雰囲気が見て取れた。C&S質問紙の結果では、全体として児童の自己肯定感が高まり、学級の雰囲気もよくと感じ、よりよい人間関係が築けていることがわかる。今後も児童の自己肯定感の高まりや人間関係について把握し、定期的に認め合いをする時間と場の設定をし、支援をしていく必要がある。